

第1章 教育課程とは

この章は教育課程について基本的、原則的な概念を理解する内容です

1 教育課程の語義及び定義

(1) 教務主任は教育課程の番人たるか

教務主任の先生方は「教育課程の番人」と呼ばれてきました。これには、自校が編成し実施している教育課程がそのねらい通りに、また編成したとおりに実施されているかどうかを見届けるといふ意味が込められています。しかしながら、この教育課程という用語をきちんと理解している教務主任は存外少ないのではないかという印象を持っています。

教育課程の編成は行事調整ではない

教務主任共通の年度替わり事務に、年間授業日数（多くは、地区校長会等が申し合わせた入学式、卒業式、始業式、終業式の日時を枠組みにして）に基づき、カレンダーに行事等をはめこみ、自校の年間教育カレンダーを作成する業務があります。これは教務主任としての仕事としては大仕事です。他には、学校評価のとりまとめや成績処理、臨時休校等突発的な事態への対応、それに学籍管理が加わり、教頭の補佐役で学校のNo.3の仕事に携わる、教務主任の職務は大体このようにまとめられます。

つまり、多くの学校の教育課程の編成と実施の実態は行事調整と時数確保ということになりますが、それらは教育課程編成と実施業務の一つに過ぎないと言っても過言ではないのです。いや業務と言うより事務でしょう。

教育課程は学校目標具現化のための計画

学校は掲げる教育目標を全職員が計画的な教育活動で実現しようとしており、その教育活動の計画が教育課程ですから、学校教育目標（以下学校目標）具現化のための教育計画を立案することが教育課程の編成で、その教育計画の実施の最先端が毎時の授業ということになります。

教務主任はこのような教育課程の編成と授業に至るまで自校の教育活動が学校目標を志向したものであるかどうか目を光らせて舵取

りするのが職務なのです。

学習指導要領に対する造詣と知見

また、各学校の教育課程の大綱は法令によって「学習指導要領によるもの」とされています。つまり、各学校の教育課程編成の基準が学習指導要領である以上、その編成にあたっては、学習指導要領や教育課程に対する深い造詣と知見が必要です。

時数管理は当然なこととして、自校で実践されている教育が、学習指導要領の趣旨及び子どもたちの実態、保護者の願い、地域の実情を踏まえて、編成したはずの自校の教育課程のIdeaの上に実践されているかどうかを評価しながら改善していくことが、教務主任のもっとも重要な職務であるはずなのです。

第1回講座のねらい

今回の講座でねらうことは、以上を踏まえて教育課程についての理解を深め、行事調整的感覚の教育課程観を根本的に改めるところにあります。

- ①カリキュラムとの関係において教育課程の語義と定義について理解する。結果として
 - ②各学校における教育課程の編成の意義について理解を深めること
- この二つがねらいです。

(2) 根本的に 学校教育って何だ

「学校教育は必要ですか？」と問われたら皆さんはどう答えるでしょう？ご自分の言葉でこの問いに論理的に答えてほしいと思います。「学校教育は必要か」など考えてみたこともないはずですが、学校教育の根本的な問い直し、それは「公教育」の意義にも及ぶのですが、詳細は教育経営講座に譲ります。

筆者が、こんな問いを発するのは教務主任の先生方のこの学校教育観が自校の教育課程がめざす「質」にかかわるからです。少し揺さぶります。教育は人づくりとよく言われます。逆に考えてみましょう。

第1章 教育課程とは

この章は教育課程について基本的、原則的な概念を理解する内容です

(2) 学校は人づくりをなしてきたか

西郷隆盛、大久保利通、大山巖、山本権兵衛、東郷平八郎、村田新八、西郷従道等

これら人物は明治維新の中心的人物であり我が国の形作りに功あった人たちです。

ならば、彼らの出身大学はどこですか？笑問ですね。学歴なし。そもそも、学制頒布は明治5年ですから、彼らが育った時代には近代学校はなく、また薩摩藩の教育方針は学問を重視せず、でしたから、大学を出ていようがありません。逆説的に申し上げれば、高等教育を受けていない彼らが日本の歴史に輝く大変革の主演をなしたのです。

もう一つの着目点は、ここに挙げた人物達は薩摩藩下鍛冶屋町で育った人たち。我が町沼津市原六軒町（約850世帯3000人）より狭いエリアの貧しい住人たちです。司馬遼太郎に言わせれば「下加治（ママ）屋町の団地の面々が明治維新をやり、日露戦争をやったようなものです(注)。となります。

彼らが育った土壌は郷中（ごじゅう）という方切（ほうぎり）を区切りとする自治組織で営まれていた若衆宿です。親元を離れこの郷中で青年期は集団生活をします。一種の社会教育制度です。西郷隆盛はこの郷中の頭でした。頭は18歳くらいですが隆盛は24歳まで頭だったそうです。この若衆宿から時代を創った英雄達が輩出されたのです。

学校教育は必要ですか？という問いは、この事実に匹敵する人育てを学校はなしてきましたか、またなしていますか？という問いです。

(2) 学校教育の特質

教育には学校教育の他に社会教育、家庭教育というカテゴリーがあります。

計画的に組織的に教育している家庭はまずありませんから家庭教育は継続性が特徴です。家風が生まれます。社会教育では行政が担うものには計画性がありますが、人間関係や地域の習慣等が介在する地域にはその成果

学校教育の特質			
	計画性	組織性	継続性
学校教育	○	○	○
家庭教育	?	?	○
社会教育	△	○	?

↑

計画性＝教育課程の存在

を求めた計画性は皆無です。結果として地域で育ったというくらいです。江戸期の薩摩藩の「郷中」は継続性がありましたが、現代では教育機会は個人に付されているのが通常ですから継続性はないに等しいと言っていいでしょう。そうしてみると学校教育は計画的、組織的、継続的に行われている点に特質がありますが、この特質こそが教育課程の編成と実施です。全教職員で叡智を絞り各段階の計画を立案し、それを実施しているのですから組織的で計画的です。さらに教育課程の実施の状況を評価して自校の教育課程はリフレッシュされていくのですから継続的です。

(3) 教育課程の定義

ここで、まとめの意味で教育課程を定義しておきましょう。

「課程」とは

課程とは辞書的に言えば「(学校等で)ある期間で割り当ててさせる学習・作業や内容。また、大学などでの専門別コース。「教育一」「専攻一」「修士一」(漢字源)ということになります。

卒業証書には「全課程を修了したことを証します」と書かれています。本当に修了したのかのかは??ですが、要するに小学校なら小学校で学ぶべき内容や経験すべき作業を全部修めましたよという意味です。

教育課程とは、この課程に「教育」を乗せて、学校における「教育」の「課程」とすればいいでしょう。